

日本パッケージング コンテストへの取り組み

10年

連続受賞!!

愛知の地で創業以来 100 余年。一貫した紙器製造により今日の発展を築き上げて参りました。

これまで多岐に渡る分野のお客様とのお取引により、設備改善・技術改革を社員一丸となって取組んで

参りました。今回ご紹介させて頂く資料は、弊社の技術開発に対する取組みの一つとして実施しております「日本包装技術協会主催 日本パッケージングコンテスト」への受賞記録となります。※日本パッケージングコンテストは、包装における「デザイン～ロジスティック」に至るまでのその年の優れた包装を決定するもので毎年開催されております。尚、受賞作品には優れた包装の「証」である「GP マーク」の使用が許可されます。

- ・1981年「美粧ディスプレイカートン」にてアジアスター賞を受賞。
- ・1992年「医療廃棄物容器メディックス」にてアジアスター賞を受賞。
- ・2005年「ポップティッシュ」にて包装部門賞を受賞。
- ・2009年「大和三山」にて菓子包装部門賞を受賞。
- 2013年「ジッパー」にて包装アイデア賞を受賞。
- 2014年「吸収性骨再生材料セラリボンH」にて医療品・医療具包装部門賞を受賞。
- 2015年「834Q93」にて工業包装部門賞を受賞。

2016年 菓子包装部門賞



「マスケラータ アソート ボックス」

上下2段の身箱上段を後方へ開くことにより、「商品面積」が広がります。開発コンセプトであった「パーティー感」や「ギミック性」を構造設計により表現することができました。

2017年 日用品・雑貨包装部門賞



「S 額箱」

卓球ラケット面のサイズ差・板厚差、グリップ部のサイズ差などを考慮し、約 50 種類の差分を1つのパッケージにてホルドし保護性を高めました。また、海外製品による偽造防止も開発目的とされ、特種印刷による独自性を高めました。

2018年 日用品・雑貨包装部門賞



「東京メトロカラー」

カラフルなインクボトルを目立たせるため、蓋の天面に穴を開けました。身蓋という単純な構造ですが、天パットを PET0.4mm にすることで、強度を保ちつつ中のインクボトルを見せることを可能にしました。

2019年 贈答品包装部門賞



「国産果実 凍らせて食べるジェラート」

ジェラートの入った個箱を、氷山を連想させる逆台形で表現しました。個箱どうしが支え合うことで、輸送の振動や衝撃に耐えられる事を可能にしています。外箱は、身の深さを内容物より低くする事で、カタログ写真でも立体感が伝わるよう工夫しました。

2020年 輸送包装部門賞



「軽井沢高原ビール3缶入り箱」

缶底部に記載されている賞味期限を目視にて確認するため開発された包材です。箱底部に中身の本数分の大きな穴を開けつつ、機械にての貼加工を可能とした「新しい底貼」パッケージとなっております。

2021年 包装技術賞・適正包装賞



「発想は無限 フレキシブル ギフトボックス」

現場の声を重視したギフト開発を実施。様々な内容物に対しフレキシブルに対応する事を可能にした仕切パーツを共同開発するに至りました。全ての仕切が、異なるサイズのギフト箱に対し共通部材として使用可能であり、折り方・入れ方・使用方法を問いません。

2022年

日用品・雑貨包装部門賞

「キャザン」

焚火の薪組・燃焼補助を目的とした商品で、組み立てることで山のような形になります。資源を大切にするという発想から生まれた最小限の簡易包装で、スリーブまでも燃焼可能な段ボールを使用しムダを省きました。

